

西土佐地域自動運転モビリティ実証実験の結果報告を行います
～ J R 予土線江川崎駅を拠点とした自動運転サービスの実証実験企画会議の開催～

令和 5 年 3 月 13 日
四 万 十 市
四国旅客鉄道株式会社

四万十市と J R 四国は、J R 予土線の利用促進と沿線の地域振興を図ること、及び将来の持続可能な公共交通の実現を目的として、J R 江川崎駅と観光施設等の地域拠点を結ぶ自動運転モビリティ実証実験を行いました。この度、第 3 回目の西土佐地域自動運転モビリティ実証実験企画会議を以下のとおり開催し、実証実験の結果を報告・議論いたします。

なお、本取組については国土交通省・高知県の協力を得て実施します。

1. 日 時

令和 5 年 3 月 2 0 日 (月) 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0 (予定)

2. 場 所

四万十市西土佐総合支所 2 階 大会議室
高知県四万十市西土佐江川崎 2 4 4 5 - 2
※ W E B 会議方式を併用して開催します。

3. 議 事

- (1) 実証実験の実施状況について
- (2) 効果検証結果の報告について
- (3) 実験結果を踏まえた今後の取組について
- (4) 規約の改正について

4. 取材等

- (1) 会議の傍聴については、来庁もしくは、W E B 会議での傍聴もできます。

なお、W E B 会議については、通信状況により、画像の乱れや一時的な停止等の不具合が発生する可能性がありますのであらかじめご了承ください。

- (2) 報道関係者で傍聴を希望される方は、**3 月 1 7 日 (金) 正午まで**に以下のとおり メール 又は FAX にて **別紙 取材申込書** を送付ください。

W E B 傍聴希望の方は期限までにご連絡いただいた方に W E B 会議の U R L を送付します。

件 名 : 【傍聴希望】自動運転モビリティ実証実験企画会議 本 文 : 氏名 (ふりがな)、所属、連絡先 (電話番号) 送付先 : メール : kensetu★city.shimanto.lg.jp (送信の際には「★」記号を「@」に置き換えてください。) F A X : <u>0 8 8 0 - 3 4 - 0 3 8 1</u>
--

- (3) 会議の撮影及び録画は、冒頭の会長挨拶までとさせていただきます。司会より終了の案内があった段階で、速やかに撮影及び録画を終了していただくと共に、以降の画像を報道等を使用することはお控え願います。なお、引き続き傍聴していただくことは可能です。

【お問い合わせ先】

四万十市 まちづくり課 桑原
T E L : 0 8 8 0 - 3 4 - 6 1 2 7
J R 四国 総合企画本部 上野
T E L : 0 8 7 - 8 2 5 - 1 6 1 5

西土佐地域自動運転モビリティ
実証実験企画会議 事務局 宛
(四万十市役所 まちづくり課)

申込先: (TEL) 0880-34-6127
(FAX) 0880-34-0381
(E-mail) kensetu@city.shimanto.lg.jp

第3回西土佐地域自動運転モビリティ実証実験企画会議

取材申込書

必要事項をご記入のうえ、**3月17日(金)正午まで**にFAXまたはメールにてお申込みください。

貴社名	
傍聴方法 (○を付けてください)	来庁 ・ W E B
連絡先	T E L : F A X : E - mail :
取材者 (代表者) 氏名	
取材人数	人
連絡事項等	

〈留意事項〉

- ・取材にあたっては、新型コロナウイルス感染予防のため、マスクの着用をお願いします。
- ・企画会議事務局、関係者の指示に従うとともに、会議の妨げにならないようにご協力願います。

西土佐地域自動運転モビリティ実証実験企画会議の設立趣旨

○背景

・西土佐地域の基幹的公共交通でJR四国が運行するJR予土線は、沿線人口の少子高齢化などに伴い、**利用者数の減少が大きな課題**となっている。

・四万十市では、「高知県予土線利用促進対策協議会」において、予土線の運行存続のための**利用促進並びに地域振興**について、JR四国とともに取り組んでいる状況である。

一方、JR四国では、**地域の関係者と一体となって利用促進等に取り組むとともに、四国に最適で持続可能な「公共交通ネットワークの四国モデル」の構築**を目指しており、**自動運転等の新技術に関心を持っていた。**

そこで、四万十市では「高知県予土線利用促進対策協議会」規約第6条に基づき、**JR四国・国・県へ協力を要請し「JR予土線の利用促進と沿線地域振興を図ること、及び将来のサステナブルな公共交通の実現**を目指して、**JR江川崎駅と観光施設等の地域拠点を結ぶ自動運転モビリティ実証実験に向けた検討を実施**すると共に、結果の検証などを行う事を目的に西土佐地域自動運転モビリティ実証実験企画会議を立ち上げる事とした。

【高知県予土線利用促進対策協議会】（S59.11～ 1回/年）

[目的]

予土線の運行存続のための利用促進を図り、もって産業・経済・教育・文化等地域の発展を図る。

[規約 第6条]

会長が必要と認める場合においては、関係機関及び団体、有識者、沿線住民等の**企画会議を招集することができるものとする。**



【西土佐地域自動運転モビリティ実証実験企画会議】

[目的]

本企画会議は、自動運転技術を用いた道路と鉄道の新たな連携手法を検討し、以って予土線の利用促進を図り、同沿線地域の観光・産業の活性化を図ることを目的とする。

西土佐地域自動運転モビリティ実証実験企画会議委員名簿

資料2

◎：会長 ○：副会長

令和5年3月

No.	所 属	氏 名	備 考
1	高知県公立大学法人高知工科大学システム工学群 准教授	西内 裕晶 ◎	学識経験
2	四万十市西土佐奈路地区 区長	岡崎 英明	市民団体
3	四万十市西土佐用井地区 区長	佐々木 英人	
4	四万十市西土佐商工会 会長	上村 賢介	商工
5	道の駅よって西土佐 駅長	林 大介	
6	株式会社西土佐四万十観光社 代表取締役	横山 浩一	観光
7	ヤマハ発動機株式会社 技術・研究本部 技術開発統括部 制御システム開発部 センシンググループ	小林 寛	車両メーカー
8	有限会社 西土佐交通 代表取締役	竹崎 直樹	事業者
9	四国旅客鉄道株式会社 総合企画本部 担当部長	新居 準也 ○	
10	国土技術政策総合研究所 道路交通研究部 高度道路交通システム研究室 室長	井坪 慎二	国
11	四国地方整備局 道路部道路計画課長	山岡 敏之	
12	四国地方整備局 中村河川国道事務所長	田中 元幸	
13	四国運輸局 高知運輸支局 首席運輸企画専門官（総務・企画観光部門）	山本 圭	
14	高知県土木部道路課長	黒岩 敬一郎	高知県
15	高知県中山間振興・交通部交通運輸政策課長	伊良部 直	
16	高知県幡多土木事務所長	小森 雅彦	
17	高知県警察本部交通部交通企画課長	奥田 貴之助	高知県警察
18	高知県警察本部交通部交通規制課長	花田 努	
19	高知県警察本部中村警察署長	細谷 勇一	
20	四万十市第二副市長	森山 崇 ○	四万十市
21	四万十市地域企画課長	小谷 哲司	
22	四万十市企画広報課長	山崎 行伸	
23	四万十市観光商工課長	金子 雅紀	
24	四万十市産業建設課長	佐川 徳和	

<事務局>

1	四国地方整備局 中村河川国道事務所 調査課 課長	門田 健一	四国地方整備局
2	四国旅客鉄道株式会社 総合企画本部 担当課長	上野 智弘	四国旅客鉄道株式会社
3	高知県道路課課長補佐	矢田 義博	高知県
4	四万十市まちづくり課長	桑原 晶彦	四万十市

西土佐地域の基幹の公共交通であるJR予土線は、沿線の人口減少や少子高齢化などに伴う利用者数の減少が大きな課題となっている。そこで本市とJR四国、国土交通省四国地方整備局、高知県、関係団体が協力し、JR予土線の利用促進と沿線地域振興を図ることを目的に、西土佐地域において自動運転モビリティの実証実験を開始。JR江川崎駅から道の駅よって西土佐までの約1Kmを自動運転、道の駅よって西土佐からホテル星羅四万十までの約1Kmを手動運転で実施することで、各種検証を行う。

■実証実験開始にあたり出発式を開催

- ・日時：令和4年8月20日(土) 13:00 ~ 14:00
- ・場所：JR江川崎駅前(高知県四万十市西土佐江川崎)
- ・主催：JR四国・四万十市
- ・次第：
 1. テープカット・くす玉開披
 2. 開会挨拶
 3. 来賓挨拶
 4. 祝電披露
 5. 実験概要説明(車両説明・概要説明)
 6. 自動運転試乗



■実証実験

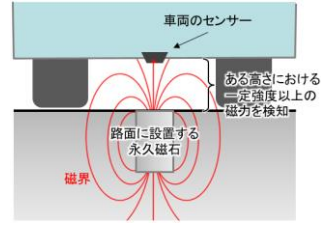
- ・実験期間：令和4年8月21日(日) ~ 8月28日(日)
- ・実験ルート：
 - 自動運転：JR江川崎駅 ~ 道の駅よって西土佐
 - 手動運転：道の駅よって西土佐 ~ ホテル星羅四万十
- ・実験車両：ヤマハ発動機 カートタイプ(1台:乗客4名乗り)
 - ※磁気マーカタイプを使用
- ・検証項目：
 1. 自動運転サービスを活用した鉄道駅からの行動範囲拡大の可能性
 2. 自動運転サービスの受容性
 3. 自動運転サービス実装に向けた経営課題の検証
 4. 自動運転サービス導入に必要な道路環境
 5. 自動運転技術に関する検証



磁気マーカを用いた自動運転車両を使用



カートタイプの車両を使用



磁気マーカが発する磁気を車両側センサーが感知し、車両を誘導



ご当地キャラ アチチうなぎ「しまっち」をラッピング

目的	項目	具体的内容
自動運転サービスを活用した地域課題解決の可能性の検討	自動運転サービスを活用した鉄道駅からの行動範囲の拡大の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ○予土線の利用促進 ○観光客の流動性向上 ・江川崎駅~道の駅及び星羅四万十等への移動手段が確保された場合の鉄道利用者の利用属性、利用可能性及びサービス満足度の把握 ○地域住民の予土線利用促進 ・江川崎駅~道の駅及び星羅四万十等への移動手段が確保された場合の地域住民の属性、利用可能性及びサービス満足度の把握
	自動運転サービスの受容性	<ul style="list-style-type: none"> ○自動運転サービスの受容性 ○自動運転サービスと連携した地域活性化 ○自動運転車両に対する満足度 ○自動運転サービスに対する歩行者と自転車、子どもの安全性の把握
自動運転サービス実装に向けた経営課題の検証	自動運転サービスの導入コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の導入・維持管理コスト、安全対策等のためのコスト、インフラ(磁気マーカ、RFIDタグ)整備・維持管理コストの把握 ○期待される収入 ・利用者の支払い意思額(自動運転サービスの利用料金)
	自動運転サービス導入に必要な道路環境	<ul style="list-style-type: none"> ○一般車両と自動運転車両の混在走行区間での手動介入状況の確認 ○自動運転の高度化にむけた課題の整理
自動運転実装に向けた技術課題の検証	自動運転技術に関する検証※	<ul style="list-style-type: none"> ○磁気マーカを用いた自動運転技術の信頼性の確認 ○磁気マーカの効率的な配置

※車両マーカによる検証

乗車率	自動区間 (江川崎駅~道の駅よって西土佐)
期間	R4.8.21~R4.8.28
延べ乗車人数	422人
乗車率	79.3% 延べ乗車人数422人 乗車可能人数532人 (16便×4人×7日+21便×4人=532人)

今後の実証実験の進め方

- 関係機関との調整、実験環境の整備を行い実証実験に向け準備を進める。
- 令和4年8月21日～28日(8日間)で実証実験を実施

時期	実験実施に向けたスケジュール
2022年 2月	第1回企画会議(2/15) (実験計画案、運行ルート案)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関調整(警察、道路管理者) ・実験環境の整備(現地工事等)
4月～6月	
7月	第2回企画会議(7/14) (実験計画決定、運行方法、規制方法等)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・実験準備、現地調整、実験広報等
8月	実証実験(令和4年8月21日～28日)
9月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果検証
2023年 1月～3月	第3回企画会議(3/20) (実証検証結果の議論、今後の取組等)

今回